



いちようっ子

学校教育目標

強 く—自信をもって心身ともに鍛える子
正 しく—深く考え、進んで学ぶ子
美 しく—思いやりがあり、感動する子

秋から冬へ 生き物の不思議

校長 吉野 徳子

師走。カレンダーも残すところ1枚となり、いよいよ学年のまとめを意識する季節となりました。

そのような折、先月、テレビで「秋から冬ごもりをする生き物」の映像を観ました。

「人間も冬は寒いし、動きが固くなるなあ・・・、あれ、蝶はどこへいくんだ？あれ、かめは????」などと、軽い気持ちで観ていました。

その映像には、天気の良い高原を飛び交うキチョウは山奥へと静かに飛んでいき、川辺にいたカメは、のそのそと川をあがり、林の中の木葉の下にもぐり、各々春に目覚めるために冬の準備をしているものでした。その姿から、愛おしさを感じると同時に、必死に自分が冬を過ごす場所に向かって進み、与えられた自然・環境の中で、自分の生命を守る・子孫への継承への厳しさや強さをも観ることができました。



本校には、毎年春になるとツバメが体育館にやってきて巣をつくり、家族を増やして飛び交っています。このツバメたちも、暖かい場所を求めて何千キロも渡り、そして、本校へ戻ってくるようです。ツバメが巣を作る家は、『居心地のいい家』『繁盛する家』といって、縁起が良いとされています。また、人間が近くにいることで、天敵からひなを守るようにと巣作りをするそうです。

毎春ツバメをみて「大変な冬をすごして、よくぞ、戻ってきたね。」という気持ちで、迎えていました。生き物の「生きる力」は素晴らしいです。

「アサギマダラ」という蝶ですが、その不思議も最近研究されてきました。

この小さな蝶は、冬に向けて暖かさを求め、日本列島を横断し、沖縄や台湾、香港まで2500km以上飛んで渡るそうです。冬の間は暖かい洞窟のようなところで過ごし、新たに繁殖した世代の蝶が、翌年の春に、その逆のコースを通り日本に戻ってくるのです。



こんな小さな弱い蝶が1000kmも飛び続けられるのか？

新しく生まれた蝶が、なぜ帰る場所がわかるのか？

他にも、たくさんの不思議。葉っぱの裏には、何かの卵が、土の中には冬眠しているカエルが・・・。

生き物の不思議はたくさんありますが、いずれの生物も環境(季節)とかかわって、長い間にその習性が生まれてきています。この必死に生きていく生き物たちとの共存は、今、世界で大きな課題となっていますが、おごり高ぶる人間にならず、どの生き物とも尊重し合うことができるといいなど、改めて考えさせられました。

人間は、これら生き物たちから何を学ぶのでしょうか。多くのことを学ばなければ、自然との共存はできませんね。

令和2年をどのような年にしましょうか？

今年の児童の行動目標は「**公明正大**」でした。大人の私たちにもとっても大変な内容だったと思います。

12月の全校朝会で、2020年の目標を募集します。是非、御家庭でも一緒に考え、御応募ください。

